



## キットの内容

・ラフィアブレード・とじ用ラフィア・とじ針・インナーバッグ・レザーハンドル/コード2本

### ラフィアとは

ラフィア椰子の葉から採れる天然繊維、とても丈夫です。使うほど繊維に含まれる樹脂によって艶と柔らかさが増していきます。

編むことによりさらに丈夫になり、ブレード編みのバッグや帽子は未永く使えるものになります。そんなラフィアブレードでかわいいミニバスケットを作りましょう。

## はじめに



こちら側を見ながら時計回りにとじていくイメージです



バッグの内側になる面です



短くなったら

ひとつ結びで繋ぐ  
(ご存知の方は八夕結び)  
わかりやすくする為、  
赤色のラフィアを使用します



○印の部分を「目」と読んで説明していきます

## つくりかた

1



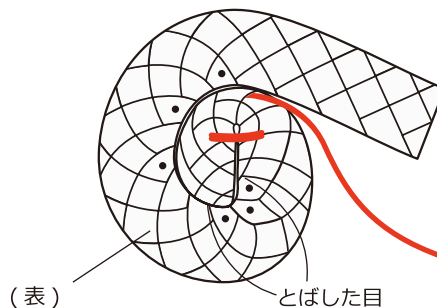
表を見ながらとじ針でとじていきます。目は1のように下からすくい上げるようにひろいます。

底部は平らにする必要がある為、隣り合った目を交互にすべてひろうと立ち上がってきってしまうため<sup>※1</sup>、2のように★印と●印をとじるところを、★印の目はひろわずに(飛ばす)、●印と●印をとじるというように適宜外側のブレードの目を飛ばす必要があります。

平らなところに底部を置いてどの目とどの目をとじると平らになるか確かめるようにするとわかりやすいです。

※1 平らになることを優先して適宜外側のブレードを1目とばす。

2



3

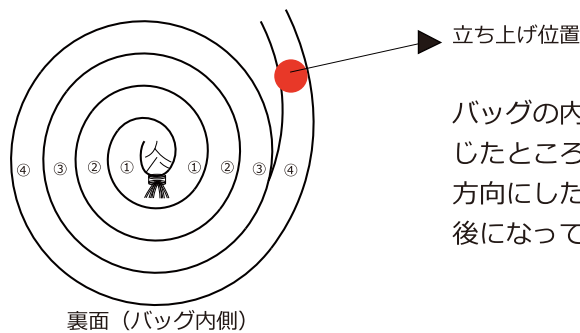


上の段の目を飛ばさずにとじていくと、3のように平らではなく、立ち上がってきしまいます。

※平らにするために飛ばすのは外側のブレードの目です。内側のブレードの目は全ての目をひろいます。

飛ばす間隔に決まりはありません。適宜調整してください。

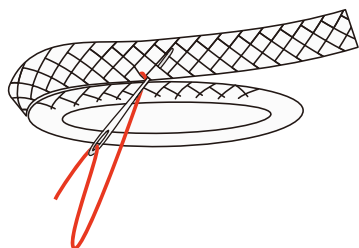
4



立ち上げ位置

バッグの内側を見て、ブレードの編み始まりの段を中心に4周とじたところで立ち上げます。ブレードの編み始めを時計の6時の方向にした時に2時のあたりです。円の直径はだいたい17cm前後になっています。

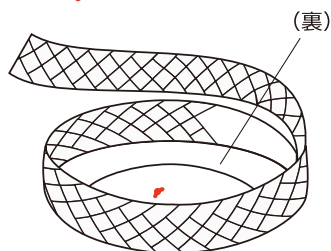
5



表面を見ながら直角に立ち上げるようにして、レードを立ち上げ、隣り合った目をとばさずに全てひろいながら\*2 垂直に立ち上げる。

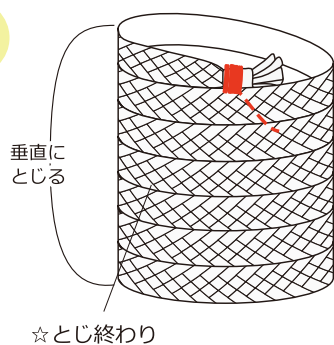
ブレードの編み始めの部分はバッグの内側になります。

※2 全てひろうと窄まったり、底が丸くなりすぎるときは上の段（外側）の目を適宜とばして調整する。



とじ用のラフィアが見えなくなるくらいの力加減でとじてください。

6



とじ終わりの処理：ブレードの編み終わりを少し内側に押し込むようにして本体にくるくると3～4回程度巻き止めます。

とじ用ラフィアはかごに数縫い込んで、と内側にでたところでカットします。

#### ハンドルを付ける

##### 1. 下準備（穴を広げる）

バッグ本体のハンドル取り付け位置に、とじ針や目打ちなどを差し込み、編み目を少し広げておきます。あらかじめ隙間を作っておくことで、レザーコードがスムーズに通るようになります。

##### 2. コードの両端を表へ出す

バッグの内側から、広げた隙間にレザーコードの両端を通し、表（外側）へ引き出します。このとき、バッグの内側にはコードの「輪」が残っている状態にします。

##### 3. 上の小さな穴に通す

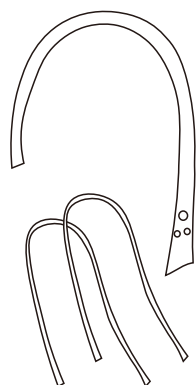
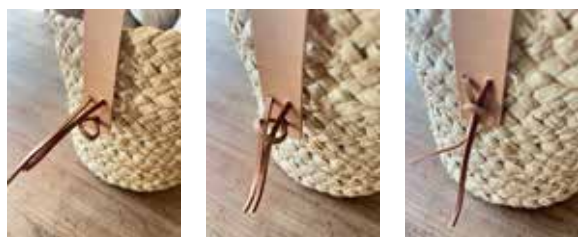
表に出したコードの両端を、ハンドルの上の小さな穴(2か所)へ、それぞれ「裏から表（手前）」に向かって通します。

##### 4. 下の大きな穴に「輪」を出す

バッグの内側に残しておいた「輪」を、本体の編み目の隙間から表へ引き出し、ハンドルの下の大きな穴に「裏から表（手前）」へ通します。

##### 5. 引き締めて固定する

上の穴から出た「2本の端」を、下の穴から出た「輪」の中に上から通します。そのままコードをギュッと引き締めれば、ハンドルが本体にしっかり固定されます。



レザーハンドル

レザーコード2本